

養老川デルタ流域の地理的考察

稲 垣 和 子

卒業論文作成に当り、東京より約50キロの位置にある、千葉県市原郡の五井町を、フィールドに選定し、地形と土地利用の観察からこの地域の性格ともいべきものをつかむことができればと考えた。

当地域は、東京湾沿岸のほぼ中央にあり、気候も海の影響を受けて比較的温暖である。地形は低平な沖積低地とわずかな洪積台地からなる。台地は中へ上部洪積層に属する成田層群、およびそれを被う関東ロームから成り、全体として南東に高く北西へゆるやかに傾いている。そして、ロームの厚さと、相互の比高の関係から三つの面に区別されるが、共に開析が進んでいて、谷が樹枝状に入りこんでいる。これに対し、沖積低地はかなり広い養老川の三角州と台地を開析する谷と海岸平野より成っている。殊に、養老川は、その運搬物質を河口に堆積し、カस्प形三角州を突き出している。川の運び出している砂や泥のうち、細かい泥は川の流れや潮流によって東京湾まで運ばれるので、河口付近には、主として砂が堆積している。又、砂質であるというのは、内陸側にも認められる。例えば、後背湿地や旧河道は中砂へ粗砂の砂層で被われており、これはこの地の一つの特色ともなっている。

土地利用は、自然条件の影響を受けて耕地が8割近くをしめ、産業人口構成から見ても純農村である。そして、農業の経営方法から①農業経営規模の小さい、海苔養殖を主とする地区、②商品作物の栽培、酪農が比較的進んでいる地区、③経営規模は比較的大きいが不利な地形により、従来の農業経営の残っている台地上の地区の三つに分けられる。この地域一特に海岸地区一では、海苔業のしめこきた役割は大きく、それは耕地面積の狭いことにも拘らず、耕うん機等の高い普及率を示している事にうかがえる。が、経営組織は五井町周辺一帯に、米+多部門、又は米単作経営がそれぞれ30%程度をしめ、経営の分化が見られないのが一般である。ただ、わずかに五井町の米+蔬菜型、米+果樹型が目につく程度である。しかし、工場誘致により海岸の埋立地に工場進出が行なわれている現在、工場地の後背地として、急速な型で産業構造の訪れる特殊な地域である。従って、都市近郊地域として成長していく為に、種々の問題が生じている。というのも、この地域の自然条件によるもので、沖積低地のしめる割合が多い為に、水田特に温田地域となっているので、農業経営内部の収容力を高める条件に、恵まれない面を持っている。又、工場進出による農地転用の問題、同時に兼業化への移行、離農

の問題、海苔業者の就業問題等が起きており、工業後背地への移行の途上にあるというのが現状である。

以上、大体のアウトラインであるが、卒論の要旨をとのことでしたけれど、この限られた紙面でまとめる事は、私にとっては不可能であるので、地域の紹介という程度で勘弁して載せたい。卒業論文という名に恥じないものが書けなかったので、これを書きながら、数日後に先生方にしぼられる事を考えると、背筋が寒くなる思いである。今、反省してみると、先ず第一に、地域選定に当り、予備知識もなく、又予備調査もせず、工場進出の影響も知られて面白いただろう位にしか考えなかった為に、はっきりした影響がとらえられず、目的が曖昧になった事、又、参考文献がほとんどない上に、本人の地形、農業に関する知識が無い事と相まって、現状をのべたルポルタージュ程度のものになってしまったこと、日本の農業の中でのはっきりした位置づけができなかったこと等、考えれば考える程、自分のいたらなさを恥じるのみである。その為、どこといった焦点の無いものになってしまったが、とに角一つの町の性格というべきものを、まがりにもつがんだ事は、その結果がどうであろうとも、その過程において、反省すべき事、教えられる事が多く、私にとって、得るところが多く有ったと言える事で、なぐさめとしている。

京葉工業地帯の地理的考察

中 野 又 子

対象とした地域「京葉工業地帯」とは東京湾沿岸の浦安から富津までの地域である。京葉工業地帯とは、この地域一帯の海面を埋めたてることにより造られつゝあるものである。ここは東京に隣接し、東京湾を挟んで京浜工業地帯という大工業地帯に向い合っているが工業的には全くとりのこされた所である。海水面は、ノリ、貝類の養殖に使われており、ことにノリの養殖は盛んであってその生産高は全国生産の約30%にも及ぶものであった。工業の面では農水産物の加工業が地元に若干ある以外には見るべきものが無かったと云っても過言ではない。千葉県全体としてみても、第一次産業に重点をおいた経済構造を成している。この経済的な後進性を、工業誘致によって打開しようという積極の具体化した計画が京葉工業地帯造成の計画である。これが丁度、日本の工業の成長、変貌する時期と合致していたが、工業の変貌は必然的に工業立地をも変化させた。そして新しい工業立地の要求に応えられる所として、この地域の工業化の動きには一段と拍車がかけられたのである。